



# 第95期 報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。  
さて、当社第95期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

2020年6月

代表取締役社長 今泉 保彦

## 当期の概況について

当連結会計年度における我が国経済は、上半期は総じて堅調に推移してまいりましたが、年度末にかけては新型コロナウイルス感染症が世界的に広がったことにより、景気後退が強く懸念される状況となりました。

道路業界におきましては、足下の影響は限定的であったものの民間工事を中心に先行き不透明感が強まりました。

このような情勢のもと当社グループは、工事部門では民間小型工事や官庁発注工事の受注強化に努め、製品部門においては環境配慮型の設備投資により販売数量の確保に努めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の受注高は2,388億7千9百万円（前年同期比3.5%増）、売上高は2,378億1千2百万円（前年同期比6.3%増）となりました。

営業利益は、195億7千5百万円（前年同期比14.3%増）となり、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては188億2千6百万円（前年同期比64.0%増）となりました。

来期につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大が世界規模のサプライチェーンや経済活動に影響を及ぼしており、国内経済もすでに4～6月期の大幅なマイナス成長が見込まれていることから、厳しい状況が続くものと予想されます。

道路業界におきましては、公共投資は底堅く推移すると思われませんが、民間設備投資の動向が予断を許さず、経営環境の厳しさが増すものと思われれます。

当社グループといたしましては、引き続き工事部門と製品部門を中心とした地域密着型の事業展開により、経営基盤の維持・強化に取り組んでまいります。工事部門においては中核となる都市部を中心に経営資源の配分を行い、確実に受注を確保するとともに、働き方改革やi-Constructionの推進に取り組んでまいります。製品部門においては、環境に配慮した設備の増強や効率化に取り組み、製品販売数量の確保及び循環型事業の採算性確保に努めてまいります。

なお当社は、前田建設工業株式会社並びにその完全子会社である前田総合インフラ株式会社より、2020年1月21日に開始された当社普通株式に対する公開買付け（TOB）の結果、2020年3月19日付で前田建設工業株式会社の連結子会社となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 決算ハイライト

売上高

**2,378** 億円  
(前年同期比：6.3%増)

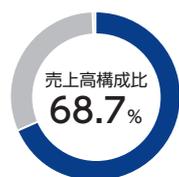
営業利益

**195** 億円  
(前年同期比：14.3%増)

親会社株主に帰属する  
当期純利益

**188** 億円  
(前年同期比：64.0%増)

## セグメント別の概況

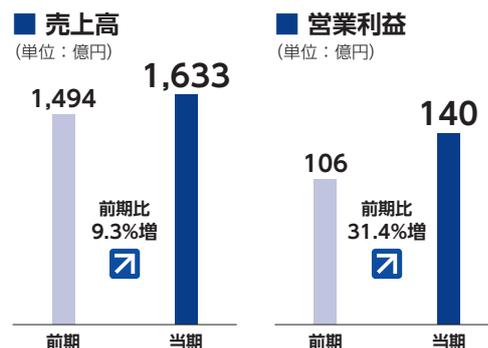


### 建設事業

売上高 **1,633**億円 (前期比 9.3% 増)

営業利益 **140**億円 (前期比 31.4% 増)

建設事業の完成工事高は、官庁及び民間発注工事の受注が前期に比べ、増加したことにより、前年同期比138億円（9.3%）増加いたしました。営業利益は完成工事高の増加に伴う原価率の改善により前年同期比33億円（31.4%）増加となりました。

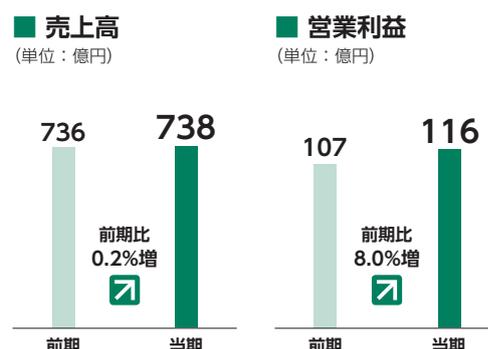


### 製造・販売事業

売上高 **738**億円 (前期比 0.2% 増)

営業利益 **116**億円 (前期比 8.0% 増)

製造・販売事業の売上高は、アスファルト合材の出荷数量がほぼ前期並みでありましたが、販売単価が改善されたことから前年同期比1億円（0.2%）増加いたしました。営業利益につきましては、原価率の改善により前年同期比8億円（8.0%）増加となりました。



### その他

売上高 **6**億円 (前期比 1.1% 増)

営業利益 **1**億円 (前期比 134.7% 増)

その他の事業は保険代理業務やコンサルタント業務など上記セグメントには含まれない事業セグメントであり、売上高は前年同期比1.1%増加、営業利益も前年同期比134.7%増加となりました。

## トピックス

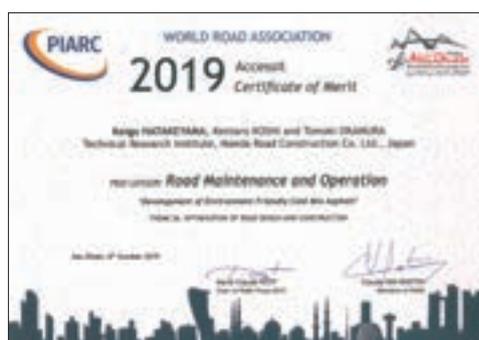
### 「AQUA PATCH」 についての論文が特別賞を受賞（世界道路会議）

2019年10月、アラブ首長国連邦のアブダビにおいて、4年に一度開催される道路分野最大規模の国際イベントである、世界道路会議が開催されました。世界中から3,000名を超える道路行政関係者、土木技術者、専門家らが参加し、日本からも22の企業・団体が参加しました。本会議では400編を超える論文が投稿され、弊社もマイルドパッチの海外ブランドである「AQUA PATCH」についての論文を投稿しました。「AQUA PATCH」は海外でも類を見ない材料であるため、道路補修材料として高く評価され、道路のメンテナンス・運用部門における「Accessit Certificate of Merit（特別賞）」を受賞しました。

また（一社）日本道路建設業協会が出展した展示ブースでは、12社の舗装会社がパネル展示及びプレゼンテーションを行い、当社は「AQUA PATCH」を含む常温道路補修技術に関する展示を行いました。現地関係者をはじめ、アジア、ヨーロッパ、アフリカなど様々な地域からのたくさんの訪問者から、この技術への高い関心が示され、今後さらなる海外展開を目指す「AQUA PATCH」を世界にアピールすることができたと感じています。



AQUA PATCH



Accessit Certificate of Merit（特別賞）

## 建設機械搭載型の計測装置の開発に関する取り組みについて

現場作業従事者の高齢化がますます進むなか建設産業ではi-Constructionのもと生産性向上への取り組みが活発に進められており、当社も省人化や省力化に向けた技術開発を推進しています。

舗装工の施工管理の効率化では、ICTを活用した建設機械搭載型の出来形計測装置の開発に取り組んでいます。舗装工は様々な材料を何層も積み重ねる工種ですが、中間工程の路床（土の層）やその上部の路盤（砕石や砂利などの層）の出来形確認は、これまでは管理地点の高さや幅を複数人で順次計測し、検査に合格すれば次の工程に進むという手順を経て行われています。開発中の技術は、小型の出来形計測装置を建設機械に搭載してi-ConstructionのICT舗装工で規定された面的な出来形管理をリアルタイムに行うもので、中間工程の計測時における省力化や省人化が期待できます。

また計測装置は、レーザ計測器、GNSS（衛星測位システム）、IMU（慣性計測装置）、トータルステーション、通信装置及び専用開発したソフトなどで構成され、試作装置は既存装置よりもコスト面で有位性が期待されます。

このICTを活用した計測装置は新しい生活様式に沿った発注者等との遠隔確認にも利用が見込まれるため、実用化に向けて一層の推進を図っていきます。



## 主な受注工事一覧

### 主な受注工事一覧

- 国土交通省 : 根田茂地区舗装工事（岩手県）
- ニッカウキスキー株式会社 : ニッカウキスキー(株)柏工場 北側敷地拡張工事（千葉県）
- 環境省 : 令和元年度新宿御苑園地排水（幹線）等再整備工事（東京都）
- 中日本高速道路株式会社 : 名神高速道路（上り線） 関ヶ原IC～八日市IC間舗装補修工事（2019年度）（岐阜県・滋賀県）
- 国土交通省 : 令和元年度大分空港滑走路改良工事（大分県）

### 主な完成工事一覧

- 国土交通省 : 山岸地区改良舗装工事（福島県）
- いすゞ自動車販売株式会社 : 株式会社いすゞニューマックス オークション会場新築工事（外構工事分）（千葉県）
- 東京港埠頭株式会社 : 令和元年度 中央防波堤外側物流対策用地整備工事（東京都）
- 山口県 : 平成30年度 主要県道岩国大竹線 単独道路改良（県道・指定 0県）工事 第12工区（山口県）
- 国土交通省 : 平成30年度北九州空港エプロン・誘導路新設工事（福岡県）



山岸地区改良舗装工事

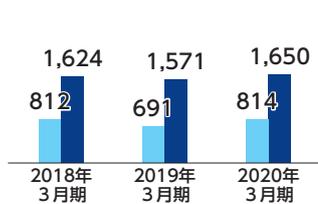


令和元年度 中央防波堤外側物流対策用地整備工事

## 連結業績の推移

### ■ 受注工事高

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 億円)



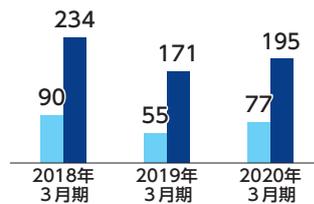
### ■ 売上高

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 億円)



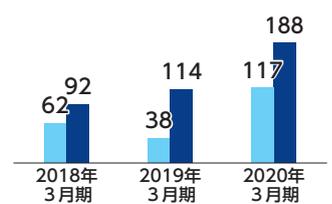
### ■ 営業利益

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 億円)



### ■ 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 億円)



## 会社の概要 / 株式情報 (2020年3月31日現在)

### ▶ 会社の概要

設立 1930年(昭和5年)7月19日  
 主要事業内容 舗装工事・スポーツ施設関連工事・景観工事等の請負・設計・監理、アスファルト合材及びその関連製品の製造販売  
 資本金 19,350,833,385円  
 当社グループの従業員数 2,557名  
 当社の従業員数 2,295名  
 本店 東京都品川区大崎1丁目11番3号  
 電話 03(5487)0011(代表)

### ▶ 取締役及び監査役 (2020年6月25日現在)

代表取締役社長 福田 幸二郎	取締役 大堀 龍介
代表取締役社長 今泉 保彦	取締役 川口 充功
代表取締役 武川 秀也	常勤監査役 天野 善彦
取締役 西川 博隆	常勤監査役 大場 民夫
取締役 南雲 政司	監査役 橋本 圭一郎
取締役 大西 國雄	監査役 大田原 吉隆
取締役 渡邊 顯	監査役 中野 由紀子
取締役 森谷 浩一	

※1. 渡邊 顯、森谷浩一、大堀龍介、川口充功の各氏は社外取締役です。  
 ※2. 橋本圭一郎、大田原吉隆、中野由紀子の各氏は社外監査役です。

### ▶ IRサイト

IR情報はホームページでもご覧いただけます。  
 URL ▶▶▶ <https://ssl.maedaroad.co.jp/ir/>

### ▶ 株式の概況

発行可能株式総数 193,000,000株  
 発行済株式総数 89,159,453株  
 ※2019年7月31日にて5,000,000株消却しております。  
 株主総数 9,920名  
 大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
前田総合インフラ株式会社	218,114	26.5
前田建設工業株式会社	204,599	24.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,768	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	19,904	2.4
前田道路社員持株会	17,223	2.1
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	14,823	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	9,879	1.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	9,871	1.2
前田道路株式協会の会	9,030	1.1
ノーザン トラスト カンパニー エイアイエフシー リ ユーエス タックス エグゼンアテド ペンション ファンズ	7,868	1.0

(注) 1. 当社は自己株式6,739,344株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。  
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### ▶ 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 単元株式数 100株
- 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
 期末配当 3月31日
- 株主名簿管理人 および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)  
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
- 公告方法 電子公告  
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。  
 公告掲載当社ウェブサイト (<https://ssl.maedaroad.co.jp/ir/electronic-ad/>)
- 上場取引所 東京証券取引所 市場第一部  
 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

